

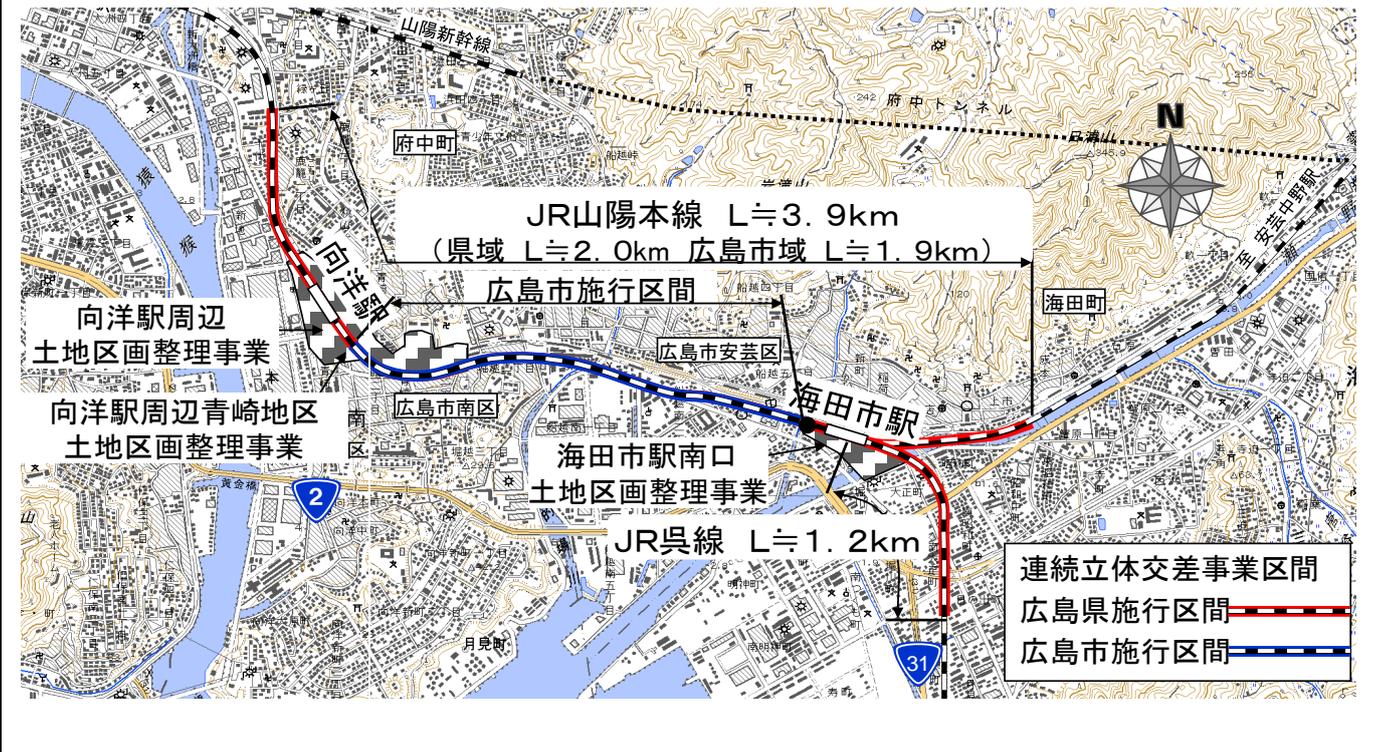
再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課

担当課長名：本田 武志

事業名	JR山陽本線・呉線（海田市駅～向洋駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	広島県 広島市
起終点	山陽本線（呉線） 自：広島県安芸郡海田町成本（広島県安芸郡海田町栄町） 至：広島県安芸郡府中町鹿籠一丁目（広島県安芸郡海田町新町）			延長	山陽本線 3.9km 呉線 1.2km
事業概要					
広島市東部地区の安芸郡府中町・海田町及び広島市安芸区・南区のJR山陽本線とJR呉線を高架化することにより鉄道で分断された市街地の一体化や道路交通の円滑化等を図り、あわせて街路事業、土地区画整理事業を実施して健全なまちづくりや都市の核づくりを推進する。					
平成5年度事業化	平成31年度都市計画変更(予定)	平成14年度用地着手	— 年度工事着手		
全体事業費	915億円	事業進捗率	— %	供用済延長	0.0km
計画交通量	227,966台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) —	総費用 (残事業)/(事業全体) — / 724.8億円 事業費：— / 720.6億円 維持管理費：— / 4.2億円	総便益 (残事業)/(事業全体) — / 814.9億円 走行時間短縮便益：—/726.1億円 走行経費減少便益：—/55.8億円 交通事故減少便益：—/33.0億円	基準年	平成30年
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量	: B/C= 1.1 ~1.1 (交通量 ±10%)		(残事業) 交通量	: B/C= — ~ — (交通量 ±10%)	
事業費	: B/C= 1.02 ~1.3 (事業費 ±10%)		事業費	: B/C= — ~ — (事業費 ±10%)	
事業期間	: B/C= 0.96 ~1.2 (事業期間±20%)		事業期間	: B/C= — ~ — (事業期間±20%)	
事業の効果等					
・連続立体交差事業を実施することにより、踏切事故の解消、交通渋滞の緩和を図るとともに、踏切除却による高齢者や児童等の安全・安心な移動動線の確保や利便性の向上、緊急自動車の迅速な移動による都市防災機能の向上、土地区画整理事業による駅周辺のにぎわいのある都市機能の集積及び沿線の活性化など整備効果が見込まれる。					
関係する地方公共団体等の意見					
—					
事業評価監視委員会の意見					
—					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
・踏切遮断による交通渋滞や踏切事故等が発生し、都市機能が著しく阻害されている現状は変わりなく、都市化の進展により事業の重要度は増している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
・平成30年2月に府中町及び海田町を含む4者で合意した内容を基本に、早期に工事着手できるよう取り組んでいる。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
—					
施設の構造や工法の変更等					
・施工ステップの工夫によるコスト縮減や土地区画整理事業等の関連事業の早期効果発現を図るとともに、引き続き、設計を進める中でコスト縮減や事業期間の短縮などに努める。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				

事業概要図



- ※ 総費用，総便益とその内訳は，各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は，表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。